

平成9年度選択漁具・漁法新技術開発事業 水産庁事業名：資源管理等沿岸漁業新技術開発事業

(抄 録)

原 子 保

は じ め に

日本海沿岸域において、ヤリイカを主体として操業している底建網には、11月から12月にかけて0+～1+才のタイ類幼魚がある程度まとまって漁獲される場合があるが、魚価が安く銘柄によっては魚市場で購入しないこともある。

このような幼魚の混獲を防止しつつ、ヤリイカの漁獲に支障のない漁法を開発し、もって資源有効利用の観点から、望ましい漁業への移行を図る。

材 料 と 方 法

期 間 1997年11月～12月

場 所 深浦町大戸瀬地先

方 法 目合50mmの底建網の網口を南東に向けて水深約50m海域に2ヵ統設置（操業網）するとともに、同規模同日合の網口を北に向けた網を2ヵ統併設（試験網）し、魚種、漁獲量、漁獲金額等について統計的に比較検討する。

試験網と操業網それぞれに漁獲された魚体は、得られた測定値の母分散が異なっている可能性があり、t検定が使用できない可能性があるので、Fisher-Brhrens検定により、危険率1%で有意の判定を行う。

結 果

網口の方向と漁獲量、漁獲金額及びタイ類の漁獲尾数の関係

- 1 操業網が試験網より漁獲尾数が上回り、漁業者が経験的に得た操業時期と網口の方向との関係は、非常に合理的であった。

試験網と操業網の漁獲対象魚種の違いについて

- 1 操業網はタイ類よりもカワハギ類が多く漁獲され、試験網の漁獲金額を約2倍上回り網口の方向を東から南東方向へ向けることが理にかなっていた。

0+才タイ類幼魚について

- 1 操業網は試験網よりも幼網の混獲率が少なく、資源管理に結び付く操業をしていた。

ヤリイカとタイ類の混獲について

- 1 ヤリイカを漁獲する網口とタイ類を漁獲する網口の方向が異なっているため、混獲率は小さい。
- 2 したがって、ヤリイカとタイ類の混獲について問題視する必要はない。